



イタリアの風景計画

千葉大学
宮脇 勝

1. イタリアの計画制度の概要

イタリア共和国憲法 (1948年1月1日施行)

第5条 **地方自治の推進** (最大の分権)

第9条 **国の風景、歴史的遺産の
保全**

第42条 **私的所有の法律と補償に基
づく一般利益のための収用**

第114条 地方自治組織

州政府、県、大都市圏 (2001年追加)、
地方自治体に区分

第121条 州政府の構成

州議会 (州法の承認)

評議会 (州法の提案)

知事 (評議員の人事、直接選挙)

都市計画法 (1942年)

計画体系

第5～6条 **広域調整計画PTC**

(景観計画を広域調整計画の一部と
みなしている)

第7～11条 **マスタープランPRG**

第12条 **都市圏計画PRGI**

第13～17条 **地区計画PP**

第31～36条 **建築物規制RE (建築許可制)**

※ただし、今日は州への地方分権で、都市計画
の詳細は、州の都市計画州法に基づいてる地方
が多数となっている。

都市計画法 (67年) + 政令 (68年)

**マスタープランにおいてゾーニング
と都市計画基準を定める**

Aゾーン: 歴史的市中心街地

Bゾーン: 既成市街地

Cゾーン: スプロール地域

Dゾーン: 工業地域

Eゾーン: 農業地域

Fゾーン: 公共整備地域

地方分権大統領令 (72年)

州制度導入、州の都市計画法導入
広域計画の都市計画決定手続きの規定
により、**評議会、州議会の重要性。**

地方自治法 (90年)

県および大都市圏への分権
知事、議会、評議会の設置

大都市圏の区部制の導入+区議会 (試行)

州政府の広域計画PTR (1990)二代目



- 1) 高速公共交通網の導入等の広域発展戦略
- 2) ゾーン毎の規制の詳細化と複合化
- 3) 風景計画との総合化
- 4) ローカルプログラムの策定

2. イタリアの風景計画

イタリアの景観法

ガラッソ法 (1985年)

「国土の自然の骨格」を指定
区域の条件に、全国普及。

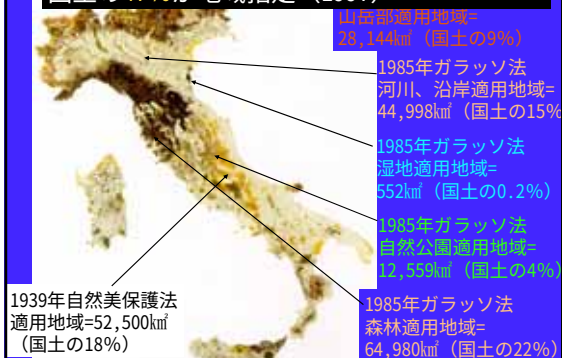
海岸部300m
河川両岸150mずつ
山岳部標高1200m,1600m
自然公園
湿地
火山
大学所属の緑地
考古学遺跡 etc.

法律策定当時は文化省政務次官、
現在はナポリ大学教授。

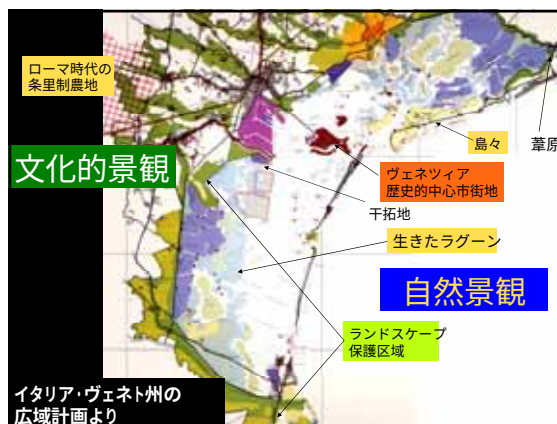
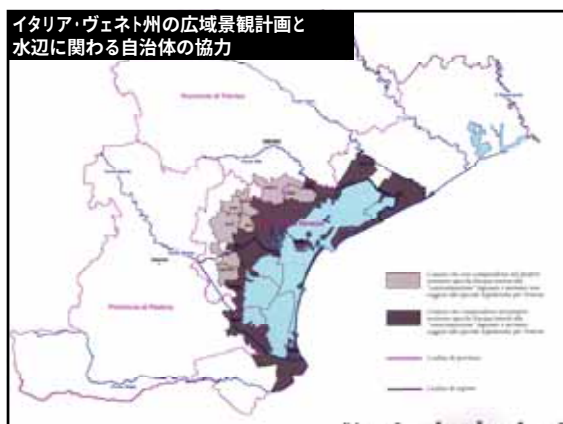


ガラッソ教授

※自然美保護法とガラッソ法と総合して、
国土の47%が地域指定 (1997)



湿地部



建築のタイプ分類



ヴェネツィア市のマスタープラン（歴史的な中心市街地部分）

60年代



イタリア・アッシジ市



イタリア・アッシジ市



都市計画マスタープラン、ゾーニング図が景観に影響

イタリアの景観法に基づく景観計画(1990)





1997年 アッシジ直下型地震 M5.7



路地と町家
(震災後の
1998年状況)

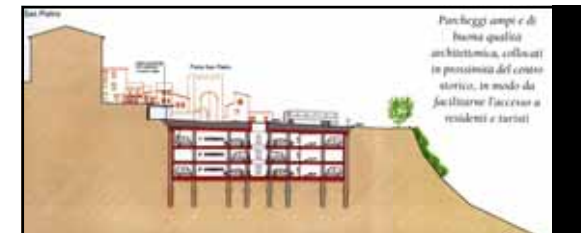
倒壊の恐れ
のある建物
(補強と修復)



歴史的市中心街地と交通規制（駐車場の設置）



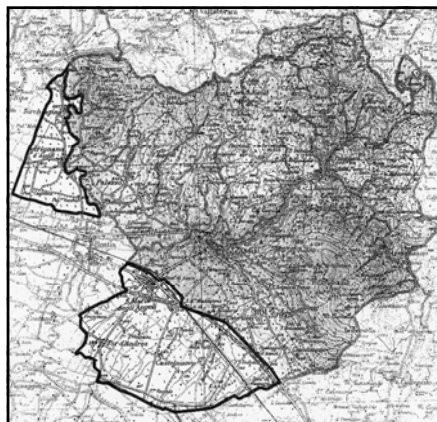
駐車場の景観整備の考え方（地下化、緑化、広場）



今後の駐車場整備計画

サンピエトロの駐車場
258台（大型バス13台）
トイレ・商業施設の設置





2000年に
世界遺産
に登録

市域全域
都市計画
マスター
プランに
よる景観
保全が評
価された



1940年の写真



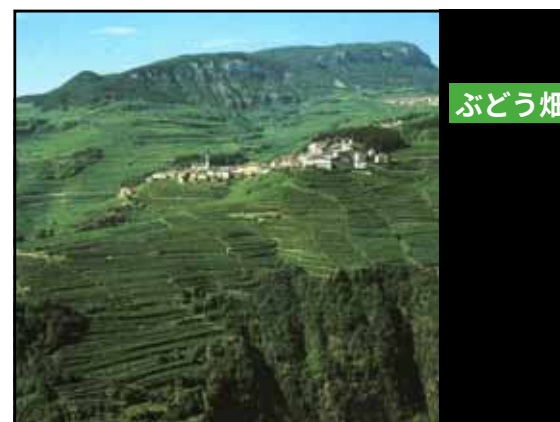
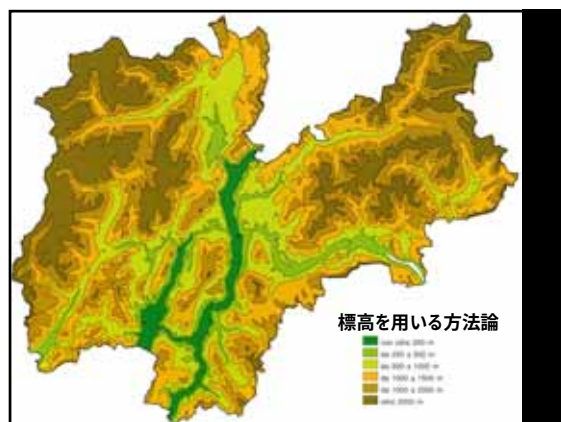
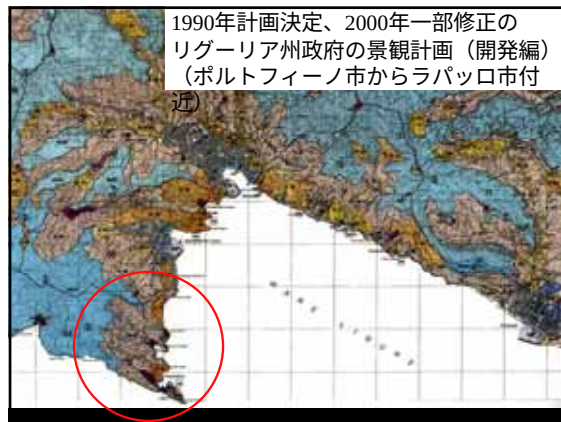
現在の写真

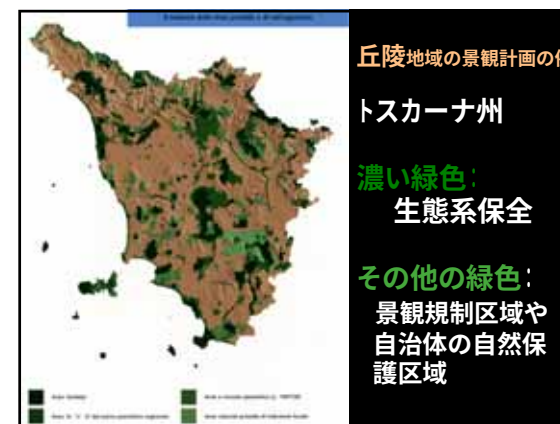
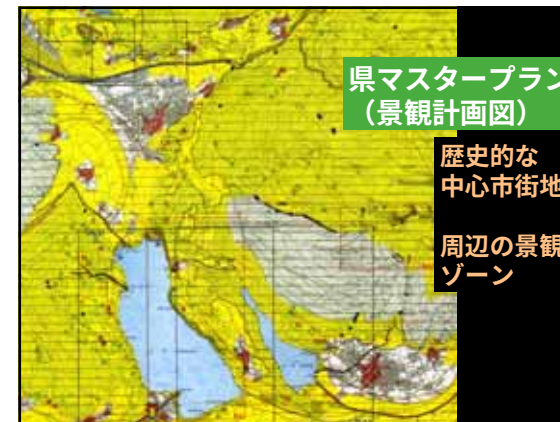


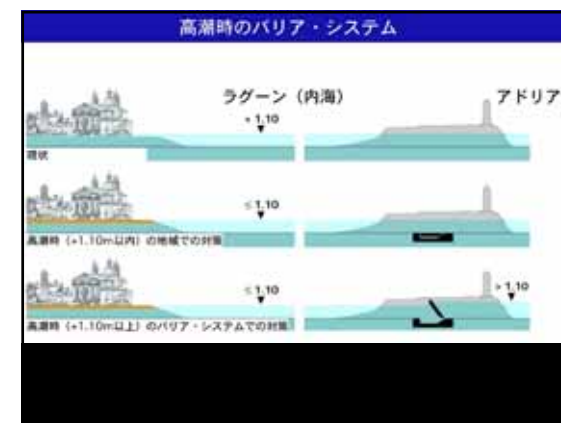
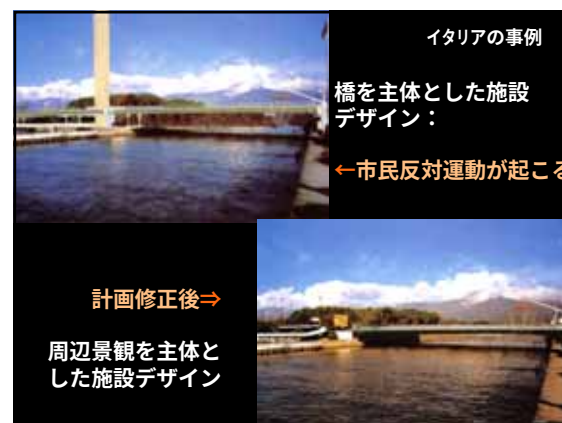
リグーリア州
チンクエ・
テルレ地域

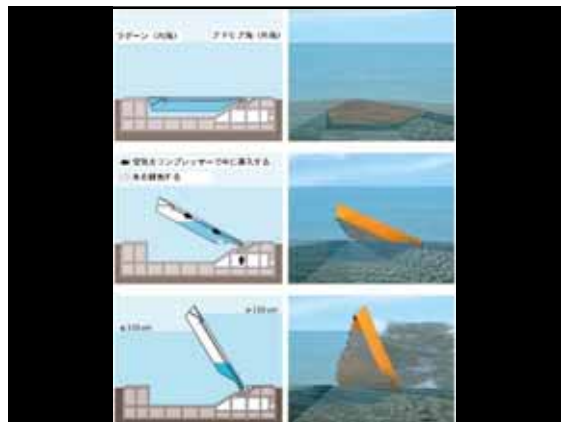


海岸地域の景観計画 (リグーリア州)









2000年ヨーロッパ景観条約 (27カ国)

国際条約
第1条 景観の定義

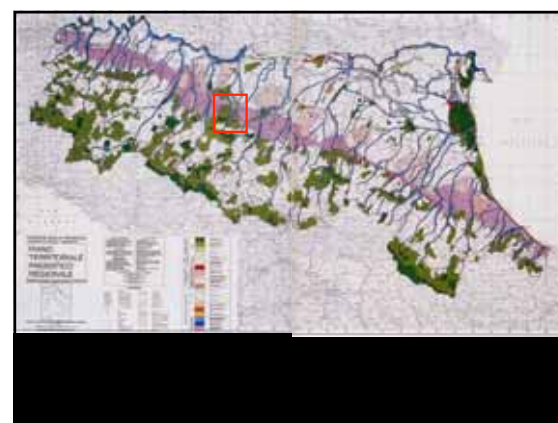
景観とは、自然がつくりだした特徴、人間がつくりだした特徴、自然と人間の相互作用によりつくられた特徴であり、人々が認識する広がりである。

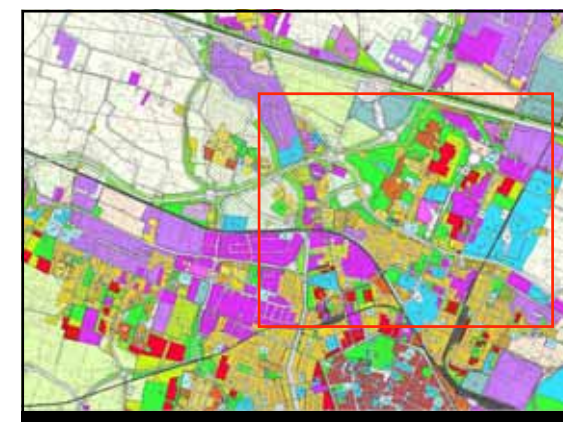
2004年イタリア・ウルバーニ法典の制定
(文化財及び風景財に関する法典)

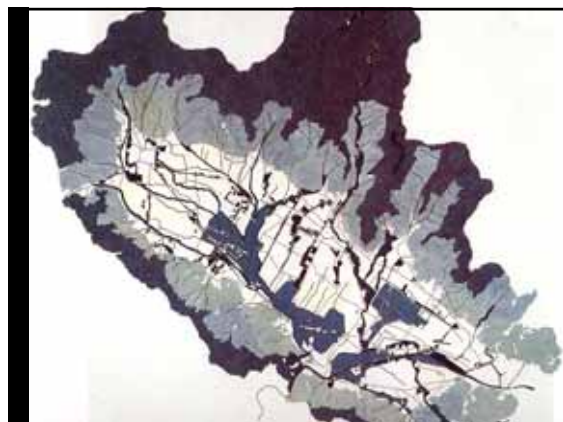
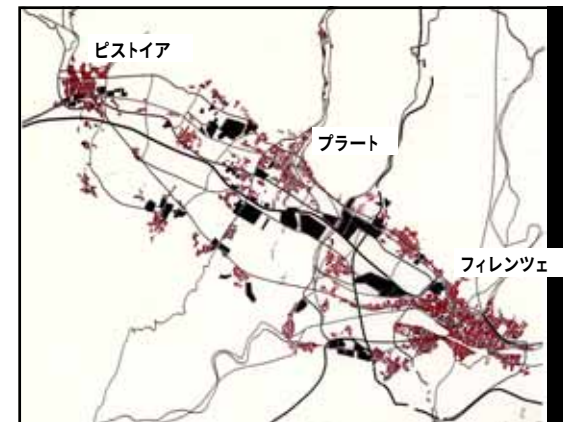
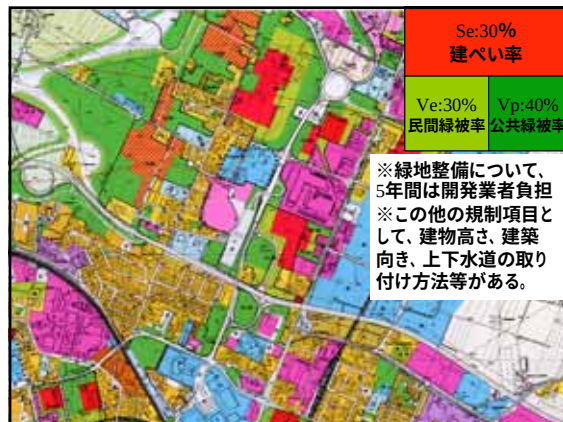
特徴:

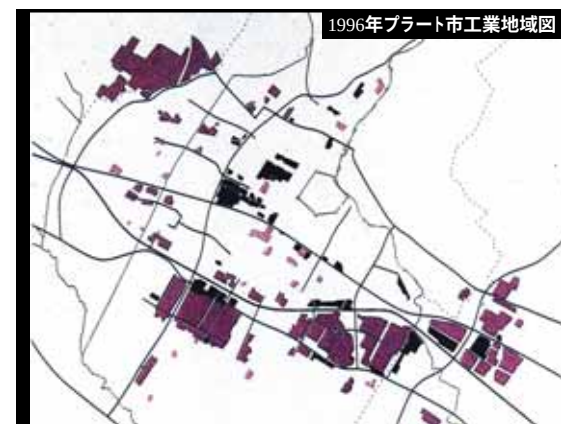
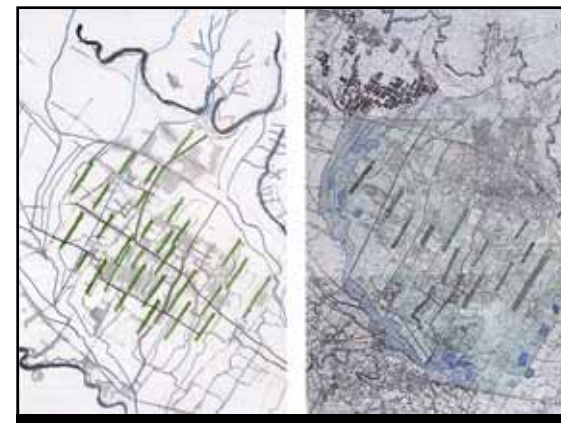
- 1) 従来の文化財や風景財に関する法律が統合されている。(1999年に統一法典からの発展)
- 2) 景観計画の適用は従来よりも広くなり、**国土のいずれにも適用できる**。2008年を期限に新しい風景計画の策定義務あり。
- 3) 景観保全だけでなく、工業衰退地域を含めた、**景観再生**も対象とする。
- 4) 国の法的手続きを詳細に明記し、国の規制の実効性を担保している。

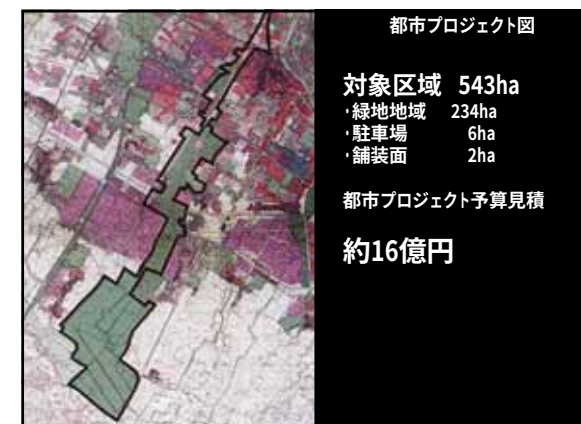
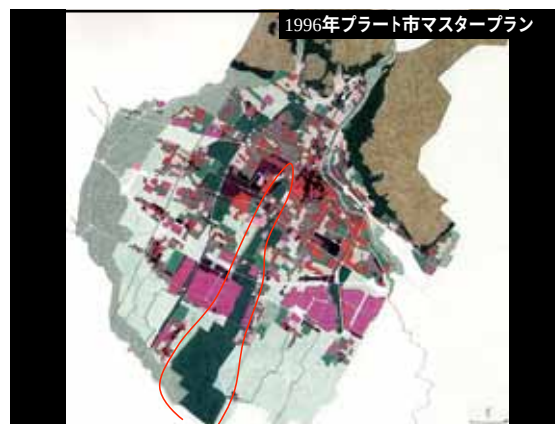
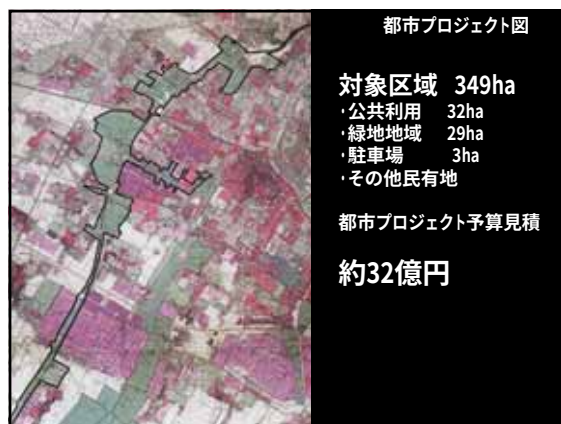
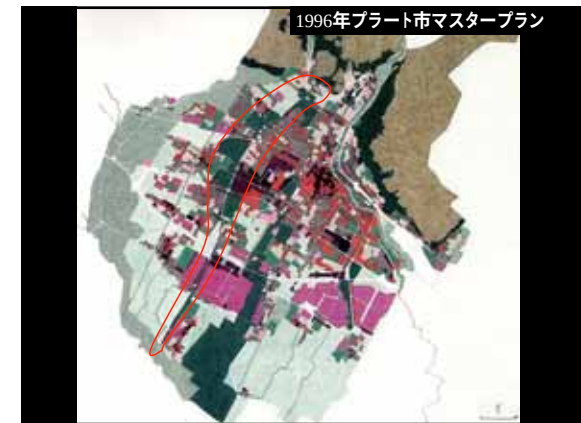
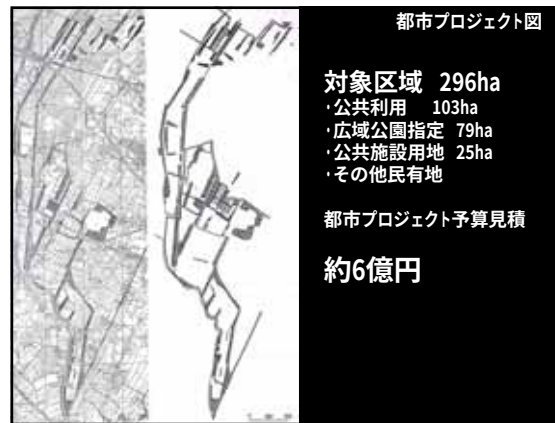
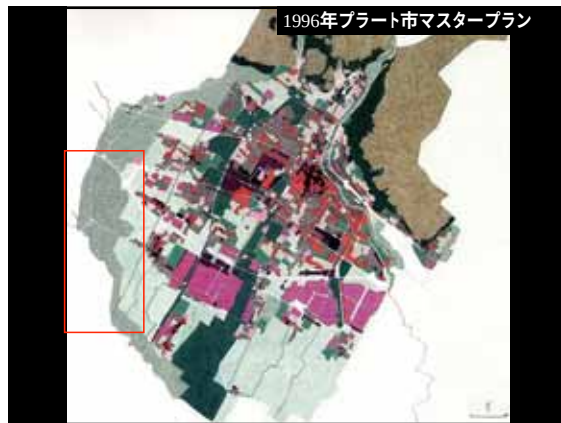
3. イタリアのマスタープラン

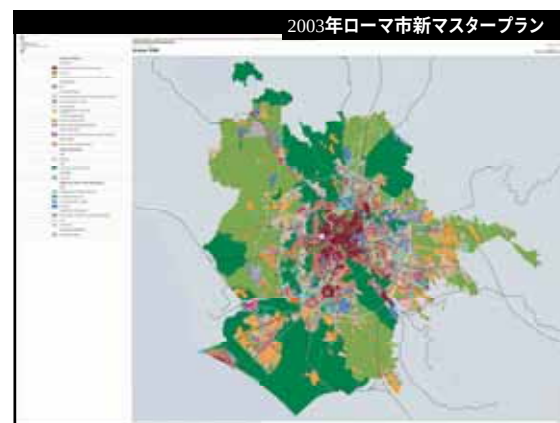
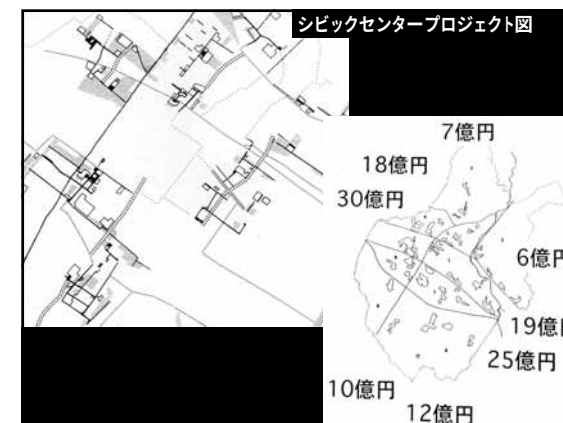
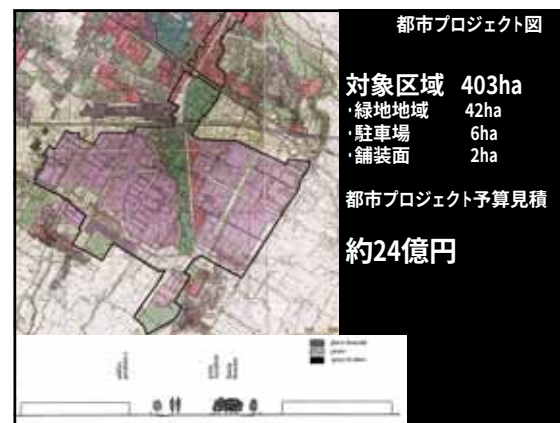
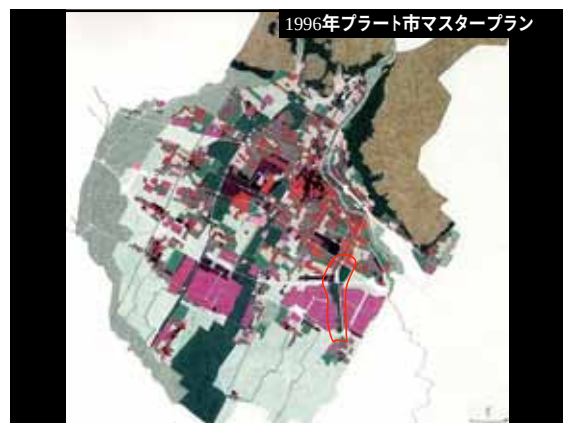


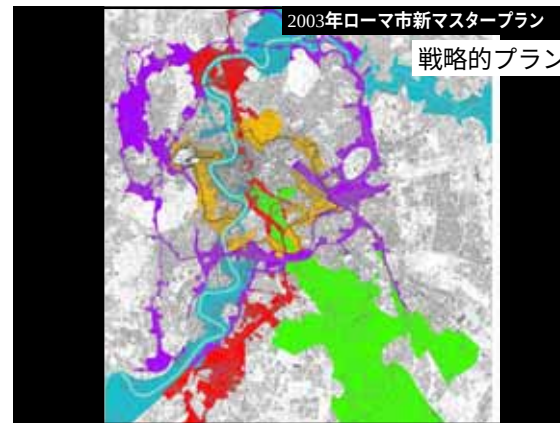
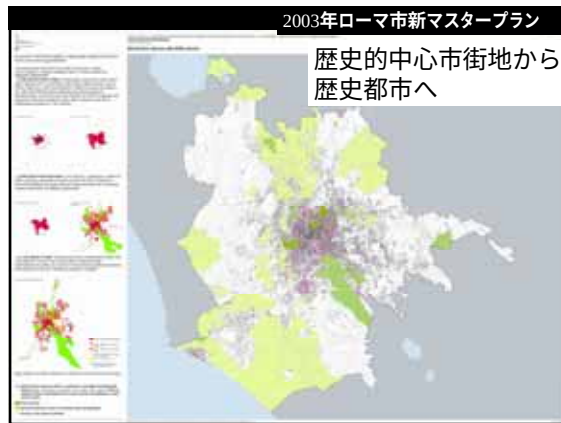




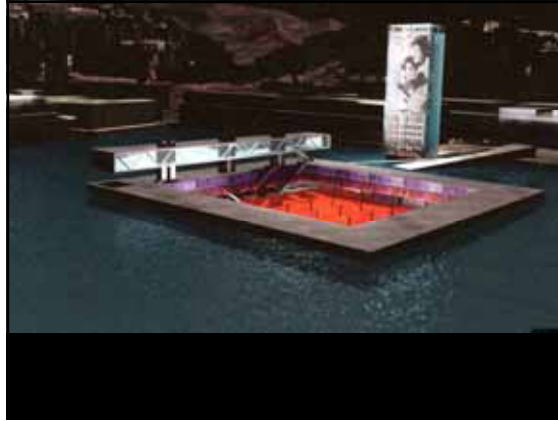














4. イタリアの都市再生

都市再生プログラムの優先項目

- 1) 官または民による生産性を最大化する
- 2) 地域にとって望ましい開発
- 3) ヨーロッパ行政に位置づけられるもの
- 4) イニシアチブを予測し開発を秩序づけられること

都市再生プログラムの主な事例

- a) 公共による開発
工業地区または低質化した地区のインフラと建物の実施、修復するもの
- b) 民間の開発
新しい技術普及を通じた競争原理を推進する目的の施設を実施、改修するもの
- c) 非営利活動
歴史的、芸術的建造物の再生、手工芸の開発、文化的な価値を有する工業施設の再生、転用

プログラムの採用

245プログラムの応募中、159プログラムを承認し、予算配分した。47プログラムは大都市、112プログラムは地方都市。特に、大都市の多くが補助された。

補助比率の目安:

歴史的な中心市街地のプログラムにおいて、公共と民間の出資比は1:1、工業系地区及び新市街地のプログラムにおいて、1:10程度であった。

都市計画マスタープランの規制を一部緩めるにあたり、容積緩和を図ったのが、約半分ある。ただし、4%~18%開発を促進しながら都市の質を向上させる目的。

第二段階で、EU基金の導入により、PRUSSTに展開



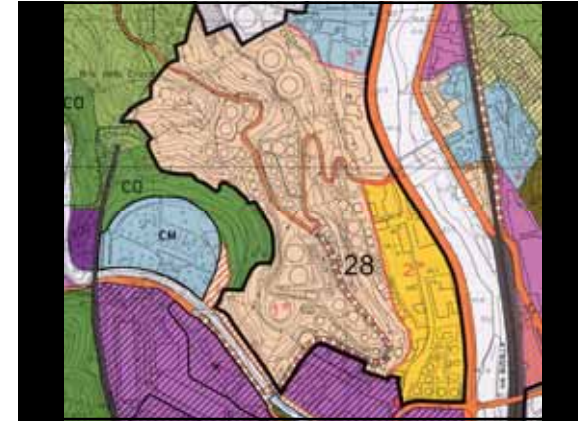


郊外の衰退地区の再生



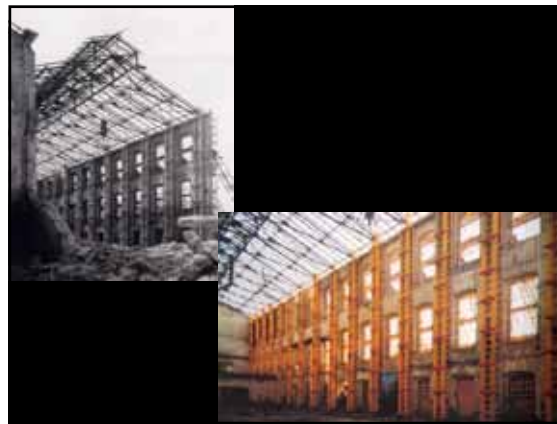


郊外の衰退地区の再生 2



パルマ市の歴史地区保存と建築再生





都市再生および持続可能な開発プログラムのタイプ分類

- 1) 郊外の新しい中心核整備
- 2) 郊外の開発が途中段階である地区の改善
- 3) 歴史的な中心市街地の文化的総合的再生
- 4) 都心利用を促進する都心縁辺部整備
- 5) 都市のアイデンティティを形成する整備
- 6) 老朽化した低所得者公共住宅の質的改善

5. イタリアの色彩計画

トリノ市の色彩計画





- 1) ポルトフィーノ国立公園規制による自然保護
- 2) 国（文化財監督局）による建築物規制
- 3) ポルトフィーノ市の色彩計画(2006年導入)



シエナ市の色彩計画（カンポ広場の例）



6. イタリアの公有地占有制度
(屋外のカフェ・売店など)



車両規制があり、子供たちが広場で安心して遊んでいる。賑わいの中心。

カンポ広場（中心広場）で、100㎡、1年利用として、15,914ユーロ（約200万円）となる。

通路を確保するため、店舗から5.5mの奥行きまでしかテーブルを配置できない規則がある。また、日よけの布の色も周囲の景観と調和するため、色（茶色）に統一する指導がなされている。店の業種や名前などのサインは、日よけ布の先の部分にしか表示できない。



サンマルコ広場とサンマルコ寺院

市内で最も土地占有税は高く、約1200ユーロ/㎡・年である。つまり、100㎡で1年使用すると、12万ユーロ（約1560万円）と高額である。

ヴェネツィア・サンマルコ広場のオープンカフェ。町で一番の広場。夕方以降になるとピアノの演奏などがある。市の規制以外に、文化財監督局（国）により歴史的環境との調和が指導されている。

